コミュニケーションペーパー（COMIPA）

2022年
2月

おやま～る

11号

小山地区定住自立圏

定住自立圏構想に基づき、栃木県小山市・下野市・野木町・茨城県結城市を圏域として小山地区定住自立圏が構成されています。圏域を構成する市町が、「集約とネットワーク」の視点に立った新しい広域連携のあり方に着目し、機能的な連携を図ることによって、個性的で創意豊かな地域づくりや魅力ある住みたい・住み続けたいと思える圏域づくりを目指しています。市民活動分野でも各市町の担当者が集まり、連携を行おうと計画しています。

特別企画！協働フォーラム「地域課題にとりくむ市民活動」

定住自立圏内で活動する市民活動団体が集まり意見交換をするフォーラムを定住自立圏に属する４つの市が協働して主催します。社会課題解決型市民活動に興味のある方々に、多様な意見を聞き、自分の意見を発することでそれぞれが自身の考え方や価値観に幅を持たせ、取り組んでいる活動をどんどん拡大していただきたいと考えています。是非、ご参加ください！

日時：2/13（日）9:00～12:00　　会場：おやま～る研修室
定員：40名程度（新型コロナウイルス感染症の状況による）

第一部：基調講演「社会課題解決型市民活動について」
講師：安藤正知氏（宇都宮まちづくり市民工房　理事長）

第二部：市民活動分科会「地域課題にとりくむ市民活動」
分科会A　高齢者福祉・若者連携「一般社団法人えんがお」（濱野　将行氏）
分科会B　まちづくり・居場所づくり「結いプロジェクト」（野口　純一氏）

2022年度、ロッカー利用申請に関するお知らせ

多目的会議室にあるロッカーの利用申請の受付を行います。
下記事項をよくご確認いただき、申請ください。

ロッカー利用可能期間　2022年4月1日～2023年3月31日

申請期間	申請方法
2022年2月15日～2022年3月18日	①指定用紙に記入する ②窓口に提出する

抽選の流れ

3/25 13:00におやま～るで公開にて決定します。
※ 出席の必要はありません。抽選終了後、順次連絡します。
※ サイズ別に抽選します

※申請はおやま～る登録団体の内、社会貢献活動を行っている団体に限ります。
※1団体につき1ロッカーのみ申請可能です。
※今年度利用されている団体で来年度も継続利用希望される団体も申請が必要です。
※継続利用を希望する団体は利用状況などを申請時に確認させていただきます。

コラム 我逢人

「ジェンダー」という言葉を最近よく聞くようになりました。

「ジェンダー」という用語は、今から約90年前の1930年代に、欧米の文化人類学者たちが使いはじめました。彼らは世界のさまざまな社会を調査し、民族や部族によって、「男らしさ」や「女らしさ」の内容が異なることに出会い、男女性差は文化によってつくられていくと考えました。その社会的文化的性差を、身体的性差「セクシャリティ」に対して「ジェンダー」と名づけました。元々はフランス語のようなヨーロッパ言語の男性名詞、女性名詞の区別をあらわす文法用語だったのです。

ところで日本人の多くは、世界の中で日本の男女の格差は非常に大きいと考えているのではないでしょうか。その原因の一つに、世界経済フォーラムが毎年発表する「ジェンダーギャップ指数」で日本が常に低位に位置づけられていることがあります。

2021年度は156国中120位でした。新聞は「女性活躍120位が示す日本の無策」と大見出しをつけ、田原総一朗は著書で「ジェンダーギャップの面で、日本はまだ「後進国」だ」と断定しています。SDGs関連図書には必ずこのことが出てきます。

しかし、この指数をはじき出す、変数がどのようなものか詳細を述べた記事はほとんどありません。実際は「経済」「教育」「健康と生存」「政治」の4分野に14項目の指標があります。しかし、この指標はかなり怪しいものです。

例えば「出生時の男女比」では日本は1位で「平均寿命の男女比」は72位です。日本の女性の平均寿命は87歳で世界一です。男性は80歳（世界8位）で7歳の差があることで順位が下がります。そもそも出生時や平均寿命の男女比が文化的性差とどのような相関性があるかもわかりません。

初等教育就学率の男女比は1位で、中等教育は129位です。99.8%が高校進学すると言われる日本で、どうして急に順位が下がるか不可解です。

経済分野は賃金や勤労所得の男女比など、市場経済にしか通用しない指標があり、政治には議員の人数だけでなく、国家元首の男女別も対象になっています。

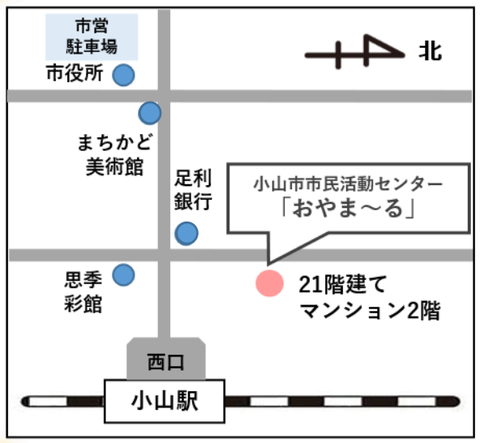
いまだにマチスモ（男らしさ、男性優位）の風潮が残り、夫の家庭内暴力が問題となっている中南米の国々が30位から4位代に多く、祭りで国王が気に入った女子を妻にする因習があるエスワティニが5位です。（前国王は70人の子どもがいたと言われます。）

つまり、日本のジェンダーギャップは「120位」という数字だけが独り歩きして、その具体的な内容は検討されていないのです。

ジェンダーギャップ指数だけでなく、私たちは数字の後ろにある欺瞞性、曖昧性、意図性などを常に考えなければなりません。

ジェンダーを考えるということは、男女それぞれに対する多様な「意味づけ」を整理し、さらに多様な意味づけを創造していくことだと思います。自分たちの主張だけが正しく、他者の感性や意見を認めない「原理主義」的発想では、心豊かな社会はうまれないでしょう。

（センター長　結城史隆）



小山市市民活動センター
「おやま～る」
（指定管理団体：ゆめ評定）

〒323-0025
栃木県小山市城山町3-7-5
城山・サクラ・コモンビル2階

Tel: 0285-20-5562
Mail: info@oyamaru.net
Web: https://oyamaru.net

開館時間　9：00～21：00
休館日　年末年始（12/29-1/3）

今年は身が凍るほどの寒さですね！
皆さんの市民活動の熱気で吹き飛ばしましょう♪

小山市市民活動センターの2月、3月の催事

活動資金獲得と寄付について本気出して考えてみたーNPOらしいお金を集める伝え方ー

資金獲得の手段として寄付を取り入れることは非常に有効です。寄付を募るためにはどのようにすればいいのか考えます。寄付を通し自分の団体を見つめ直し、正しく伝えることが出来るようになるセミナーDAY2，DAY3。

○DAY２　講座 ： ファンドレイザー入門　　WS ： 寄付依頼トレーニング
日時：2/6（日）9:00～12:00　内容：自分の団体のことを見つめ直し、寄付の依頼を練習します。

○DAY３　講座 ： NPOのクラウドファンディング　WS ： プロジェクト作成
日時：3/6（日）9:00～12:00　内容：NPOらしいクラウドファンディングのプロジェクトを実際に作ります。

定員：15名(各回)（申込必須）　　参加費：1000円（おやま～る登録団体は全額免除）
場所：ZOOM開催（おやま～る会場も有り）　　申込み：HPの申込みフォームもしくは電話・来館
講師：小山真由美氏（特例認定法人Gift　代表理事）　荒川隆太朗氏（特例認定法人Gift　副理事長）

第16回まちかど美術館企画「まちづくりシンポジウム」

まちづくりに関するシンポジウムを行います。おやま～るのFacebookで配信しますので是非ご覧ください。

第一部　：講和「田園環境都市小山　住みたいまち目指して」
講　師　：小山市長　浅野正富氏

第二部　：パネルディスカッション「住みたいまちに必須の条件は？」
パネラー：小山市都市整備部　まちづくり推進課　課長　村上　賢介氏
小山駅西口活性化委員会　副会長、小林園茶店　小林　良康氏
小山市商工会議所青年部　会長、株式会社Vi Pass代表取締役　福本　佳之氏
NPO法人子どもの育ちを考える会さくらネット小山　代表理事　高橋　弘美氏

日時：2/５（土）14:00～16:30　　主　催：まちかど美術館異業種交流まちづくり勉強会
場所：おやま～るFacebookページ　　まちかど美術館
会場参加希望者はおやま～るに問合せください　　NPO法人ワーカーズ・コレクティブたすけあい大地

誰ひとり取り残さないために　～おやま未来カフェ～　第3回

誰ひとり取り残さない地域にするために、課題を深掘りし解決策に向けての意見交換の場を設けます！今回は小山市で高齢者と向き合って活動を行うNPO法人光.JBの取組みを学び、みんなで話し合います。

日時：3/6（日）13:30～16:30　　講　師：石川　敦子氏（NPO法人光.JB）
定員：20名（申込必須）　　共　催：RUN伴栃木　小山エリア
場所：おやま～る　研修室　　申込み：HPの申込みフォームもしくは電話・来館

SDGsを深掘りするセミナー

SDGsについて少しずつ深掘りしていくセミナー第五弾！

日時：3/20（日）13:30～15:00　　講　師：結城史隆（小山市市民活動センター）
場所：おやま～る　研修室　　申込み：HPの申込みフォームもしくは電話・来館

子育てハッピーセミナー　ーダンボールであそぼうー

子どもも大人も一緒になって段ボールで遊びましょう。

日時：2/16（水）13:30～15:00　　対象　：幼児から小学生まで
場所：おやま～る　研修室　　申込み：電話・来館
定員：5組程度

オンラインコミュニケーションツール（Zoom）の使い方を一緒に学ぼう

定員：各回6名程度（申込必須・先着順）　　参加費：各回300円（資料代）
場所：おやま～る　研修室　　申込み：HPの申込みフォームもしくは電話・来館
講師：藤本尚彦（小山市市民活動センター）
※ノートPC（カメラ、マイク搭載）、スマホ、タブレットをご持参ください

○実践編（1回以上Zoomを使用したことがある方）
日時：2/25（金）13:30～15:00
内容：Zoomを使って会議に参加できるようになります。

～おにっこクラブ～

インタビューした方：会長　廣瀬　尚彦さん
クラブマネージャー　中林　忠男さん

おにっこクラブは2008年に発足した小山市で唯一の総合型地域スポーツクラブで、およそ200名が在籍しています。総合型地域スポーツクラブとは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのクラブで、子供から高齢者まで、さまざまなスポーツを愛好する人々が、それぞれのレベルに合わせて参加できるという特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されています。

「おにっこ」の名前は拠点としている小山第二小学校からきています。技術強化ではなく、スポーツを通じた交流を促進しています。バドミントンやソフトテニス、障がい者スポーツなどさまざまなスポーツを楽しむことができます。土日を中心に活動しているため、家族連れで参加する人もいます。

会長の廣瀬尚彦さんとクラブマネージャーの中林忠男さんは、「小学生の時に参加していた子どもたちが中学生、高校生、そして大学生になり、今度は小学生にスポーツを教えにきている。こういったことがおにっこクラブの活動を永く続けるうえで重要なことです。」と仰っていました。

現在、任意団体であるおにっこクラブは組織として活動を維持していくため、ＮＰＯ法人化を目指しています。また、事務局の確立及びコーチ陣の確保、そしてホームページの拡充を今後進めていく予定です。

スキー場で集合写真

バドミントンに参加するメンバー

～思川流しびな保存会～

インタビューした方：代表　諏訪　ちひろさん

思川流しびな保存会は、小山の夏の風物詩である「思川の流しびな」を継続することを目的として2020年2月に設立され、ひな人形を作るワークショップや思川で流しびなをするイベントなどを行っています。2021年11月現在、正会員が17人、保存会の活動を支援する特別会員が11人ほどいます。

流しびなは全国的に多くの地域で春に行われるのに対し、小山では夏に行われるのが特徴です。また、ひな人形（下野人形）づくりに使われる和紙は伝統技法である「下野しぼり」によるものです。なお、下野しぼりは小山市無形文化財及び栃木県伝統工芸に指定されています。小山の流しびなは60年ほど前から一般向けに行われはじめ、徐々に大きな行事として開催されるようになりました。流しびなを今後も続けていくため、将来を担う若者とも連携しながら活動に取り組んでいます。

思川流しびな保存会代表の諏訪ちひろさんは、「この２年間はコロナ禍で大勢の人を対象としたイベントは難しかったですが、流しびなをしたいという有志が集まり、伝統を途切れさせずに流しびなを続けられたことがとても印象的でした」と仰っていました。また、「将来的には大勢の人が参加できる流しびなのイベントの開催、ワークショップなどの活動を継続的に行うことで、100年、200年と思川の流しびなが続いていってほしい」と思いを語っていただきました。

思川前での集合写真

子ども向けワークショップ。作り方を学びます

当内容は、小山市市民活動センター「おやま～る」のWebサイトにも掲載しています。
ここには書いていない魅力も掲載していますので、是非ご覧ください！
https://oyamaru.net/dantaishoukai